

「9月1日」

朝和小学校 6年 瀧井 優月

この日は何の日か、分かりますか。この日は、子どもの自殺が1年間の中で、一番多い日と言われています。9月1日、それは夏休み明けの始業式の日。なぜ、毎年100人以上もの子どもが、自ら命を絶ってしまうのでしょうか。

私は自ら命を絶ってしまう子達の気持ちはわかりませんが、自ら命を絶ってしまう子達には、きっと不満・ストレス、学校に行くのが嫌、この環境から逃げ出したいいろいろな事情があるのかなと思います。

私からすると、なぜ親が生きるか死ぬかの覚悟で産んでくれた大切な命を自ら消してしまうのか、理解に苦しみます。私は、命を絶ってしまったら、そこですべてが終わると思うからです。今は人生どん底でも命を絶っていなかったら、自分の人生と未来をいつでも変えられる、大きく変わるかもしれない。この希望を持っていたら命を絶つのが、とてもばかげていると気づくことができるかもしれません。

命を絶とうとしている子達は、私が思いもよらないくらい辛い思いをしているから、その子たちの考えを否定することはできません。

だけど、もし今、私が命を絶ったらどうなるか。たくさんの方が悲しむと思います。もしかしたら、自分が死んでも誰も悲しまないと思っている人もいるかもしれない。でも、そんなことはない。必ず周りにいる人が悲しみます。

学校が嫌、授業でやりたくないことをやらされる、周りの子達とも価値観は合わない、楽しくない、1人がつらい、こんな思いが自ら命を絶つことにつながるのかもしれない。だけど生きる価値は、必ず誰にだってあります。

私が好きな曲に「毎日朝を迎えるということには、50億以上の価値がある」という歌詞があります。ということは、私達人間の寿命は81~87歳と言われており、1年を1億の価値とすると私達人間はなんと約4250億の価値が人生にあるということです。

私達はとても価値がある生き物ということ。価値がある生き物ということは、生きていくだけで得ということ。私はそんなふうに思います。

私は、ものすごい確率で生命が宿り、たくさんの方の努力をしてくれ、死ぬかもしれないのにがんばって産んでくれた命、親からもらった命を無駄にはできません。

そして、私は伝えたいです。私達の命と人生には、とんでもない価値があるということ。それを忘れないでほしいということ。